# 町長室からこんにちは

No.103

一宮町長
馬淵 昌也

わたくしの個人プロフィールの中に、趣味の活動として、短歌・俳句というものを記すことがあります。実際に作ったものを皆さんにご披露する機会は少ないので、少々過去数年の作品の中から選んでご覧に入れたく存じます。まずは短歌です。

○そこここに蟹あらはれて海沿ひの
　小さな町の夏近づきぬ

2021年7月30日。町では、夏が近づくと、アカテガニがあちこちに水路をたどって遠征してきます。産卵地を求めているのかわかりませんが、駅から役場付近まで、よく姿をみかけます。人や車につぶされているのもいて、ちょっと可哀想です。

○これをこそmellowといふらめ
　木犀の香をまとひつつ坂くだりゆく

2021年10月6日。拙宅から坂を下って国道128号線に出ますが、その坂のおりきったあたり、お隣のお宅の立派な金木犀がすばらしい香りを発してくれていました。

○春風に飛ばされおりし白梅の
　花を含めばその香清しも

2023年2月19日。この日は風が強くて、庭に満開であった梅の花が、いくつも花のまま吹き飛ばされて芝生の上に落ちていました。それを惜しんで口に含んでみたところ、梅のすがすがしい香りが口いっぱいに広がったことを嬉しくて詠んだものです。

○よつたりのおとめあゆみをそろへつつ
　鈴掲げ振る舞の清しさ

2024年4月13日。玉前神社の春祭りに伺い、昇殿して、浦安の舞を拝見したときの詠草。玉前さまの祭礼に伺うたびに、短歌を詠みたい気持ちがつのります。当然ながら短歌と日本の伝統文化とは親和性が高いわけです。

○知らぬまにさざんかの花咲き初めぬ
　先達の墓地へ続く坂道

2024年12月23日。朝役場へ歩いて出勤する途中で、加納久宜公の墓地へ上る坂道のほとりに赤いさざんかが咲き始めていたのを見ておもわず口に出た一首です。

○コジュケイの声かまびすし春浅き
　竹林深く朝日差し込む

2025年2月20日。追手の拙宅の周囲にはコジュケイが多く生息しています。早春になると繁殖期を控えて、よく大声で「ちょっとこい、ちょっとこい」となき交わしています。それを詠んだものです。

わたくしは高校生のときに、同級生に誘われて短歌や俳句を作りはじめました。今ではありがたい習慣を身に着けたと思っています。次回には、俳句をご披露いたします。